

book review

Atlas of Ovarian Tumors

Liane Deligdisch, et al.

IGAKU-SHOIN LTD. ¥14,900

The Mount Sinai Medical Center の3人のドクターの共著で大きく二つの Section に分けられている。この種の本としてはめずらしいが Section 1 では、卵巢腫瘍に関する Epidemiology, Diagnosis などの一般的事項が要領よくまとめられている。とくに Transvaginal ultrasound color-flow image については詳しく記述されており、写真もわかりやすい。参考文献も1992～3年の新しいものが多く、また豊富である。ただし Management の記述内容は、ややものたりない感がある。これにつづく Section 2 がいわゆる Atlas となっており、良性から悪性まで primary epithelial tumors, primary nonepithelial tumors, metastatic tumors について大きく七つの Chapter にわけて記述されている。各腫瘍の特徴が簡潔に記載され、それぞれの組織写真（モノクロ）と説明とともに、一部マクロの写真（カラー）が併載されている。独創的な点として、Preinvasive epithelial ovarian malignancy について、morphometry という概念を取り入れ、basement membrane から細胞核までの距離を計測し、その結果により normal, dysplasia (ovarian intraepithelial neoplasia) そして malignant ovarian epithelium を分類している。組織写真がカラーであれば、よりすばらしい本となつたであろうと推測されるが、モノクロ写真でも組織の特徴は十分に理解できる。総ページ182という薄めの本であり、あまり特殊な腫瘍は含まれておらず婦人科病理を専門とする方には物たりないと思われるが、文章も簡潔で非常に読みやすく、また Index から調べたい腫瘍がすぐにひけるため、日常の臨床で手元に常備しておくとな便利の一冊と思われる。

東京慈恵会医科大学講師 木村英三

TRANSVAGINAL ULTRASOUND 2nd ed.

Melvin G. Dodson ed.

Churchill Livingstone INC. ¥17,280

(医学書院・洋書部調べ)

近年の医療技術の進歩には目を見はるものがある。画像診断技術の分野においてはとくにその進歩に加速度がついているといっても過言ではない。なかでも超音波断層法は日常の臨床において最も広く普及したものの一つである。産科学・婦人科学においても診断精度の向上に極めて有用な手段となっていることは周知の事実であるが、経腔超音波断層法が加わったことによりその有用度はさらに拡大した。本書は1991年の初版に続く第二版であるが、この間に超音波断層法関連の書物の出版数は著しく増加した。そのために本書では産婦人科医または産婦人科レジデントを対象を絞り、産婦人科関連の領域を基礎からさらには Up to Date な診断・治療技術にまで日常臨床における最良の指針を与えるべく工